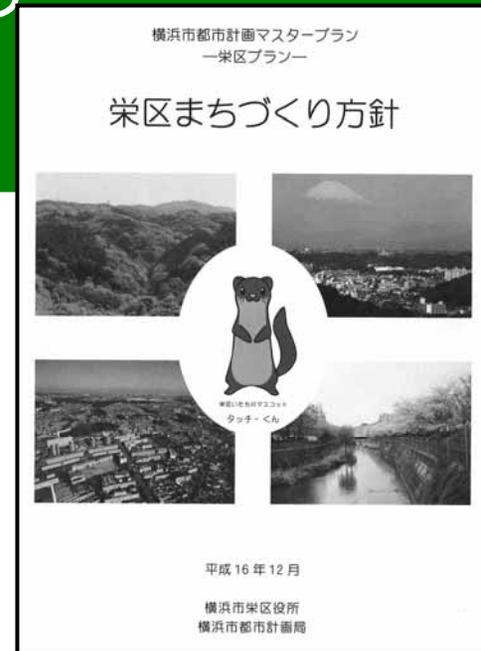


1 - 栄区の現状と課題及び 提案区域のまちづくりの目標と方針

「横浜市都市計画マスタープラン - 栄区プラン -
栄区まちづくり方針（平成16年12月）」より

「平成17年度栄区民意識調査（概要版）」より



* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

住者が多く、地区全体で少子高齢化が進み、人口減少の傾向にあります。
 * 環状4号線が慢性的に渋滞し、運行に支障をきたしていることから、環状4号線の早期整備について要望が多く寄せられています。
 * 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。
 * 環境事業跡跡地が残り、平成13年2月から採掘を休止している。
 * 栄ブルー、翠風荘、上郷・森の家、庄戸中コミュニティハウス、中郷地区センター（仮称）の建設が予定されるなど、比較的公共施設が充実している。
 * 独川や瀬上沢（独川石支川）、瀬上市民の森、上郷市民の森、横浜自然観察の森といった、自然資源にも恵まれています。

区の現状と課題（緑と水）・・・P12
 テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22

区の現状と課題（人口）・・・P10
 区の現状と課題（土地利用）・・・P11
 平成17年度栄区民意識調査・・・P2
 区の現状と課題（道路・交通）・・・P12
 テーマ別まちづくり方針「道路・交通」・・・P26
 テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22



上郷B地区：上郷町、庄戸一丁目～庄戸五丁目、長倉長、東上郷町、野七里一丁目～二丁目

— 具体的な取り組み一覧 —

1-1-1 自然環境の現状分析と保全施策の検討

栄区の豊かな自然環境を将来にわたって保全していくため、区内の緑地及び水辺の調査を実施し、生物の多様性や区民に親しまれている状況など、多角的な観点から評価を行います。

優先度の高い緑地、水辺については、土地所有者や地域の協力を得ながら、市民の森*や緑地保全地区*の指定を行うなど、多様な施策により保全を検討します。

1-1-2 緑と水の拠点の保全・整備

円海山・大丸山一帯の緑地や^{いたち}狹川沿いの水辺広場など、大規模または良好な緑地や水辺を、緑と水の拠点として位置づけ、保全・整備・管理方針の策定をはかります。

□源流の森

瀬上沢一帯や荒井沢市民の森周辺、横浜自然観察の森*など、^{いたち}狹川の源流域には谷戸*が残っており、ゲンジボタルなどが住む良好な水辺と、希少動植物も多い樹林地とが一体となって貴重な自然環境を形成しています。これらの恒久的な保全を検討するとともに、区民の環境学習の場として整備をはかります。

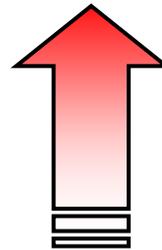
□まちなかの森

飯島市民の森や上郷市民の森など、市街地におけるまとまった緑地を、^{いたち}区民の力を活用し、周辺の住環境に配慮しながら生き物のオアシスとしての機能を確保し、^{いたち}手法を検討します。また、区のシンボリックな緑地である本郷台駅隣接緑地の保全を検討します。

□体験の森

本郷ふじやま公園では、区民と行政の協働による管理運営を行い、^{いたち}体験できる場としての活用を進めます。また、事業中の(仮称)小管ヶ谷北公園については、^{いたち}区民参加による計画づくりを行い、自然体験の場として整備を進めます。

区の現状と課題（緑と水）
栄区プランP12



具体的な取り組み（緑地と水の拠点の保全・整備）

1-1-2 緑と水の拠点の保全・整備

円海山・大丸山一帯の緑地や^{いたち}狹川沿いの水辺広場など、大規模または良好な緑地や水辺を、緑と水の拠点として位置づけ、保全・整備・管理方針の策定をはかります。

□源流の森

瀬上沢一帯や荒井沢市民の森周辺、横浜自然観察の森*など、^{いたち}狹川の源流域には谷戸*が残っており、ゲンジボタルなどが住む良好な水辺と、希少動植物も多い樹林地とが一体となって貴重な自然環境を形成しています。これらの恒久的な保全を検討するとともに、区民の環境学習の場として整備をはかります。

③緑と水

栄区の緑被率*は41.7%（全市31.2%・平成13年9月現在）と高く、全体的に緑豊かな環境となっています。なかでも区東部は、大規模で良好な自然が残り、横浜市の緑の7大拠点*のひとつに数えられています。都市公園*の面積は、区の面積の2.86%（平成16年3月31日現在）です。緑地の大部分は民有地ですが、一部は、市民の森*や緑地保全地区*に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

区内の緑地は昭和30年代後半から50年代前半にかけての大規模開発により急減し、その後は微減となっていました。近年、斜面地でのマンション建設や市街化調整区域における墓地造成等が進み、残されていた緑の減少が加速しています。豊かな自然を将来にわたって保全していくためには、既存の保全施策の活用を進めるとともに、新たな緑の保全の枠組みを検討する必要があります。

区の中央を東西に流れる独川は、ふるさとの川整備事業*の対象に指定され、自然環境に配慮した河川改修が行われるとともに、プロムナードが整備されて、栄区のシンボルリバーとして区民の憩いの場となっています。下流域についてはぼぼ改修が完了しており、現在、区東部にかけて事業が進められています。

図1-8 緑と水の現状



図1-9 幹線道路・地区幹線道路の整備状況



③緑と水

栄区の緑被率*は41.7%（全市31.2%・平成13年9月現在）と高く、全体的に緑豊かな環境となっています。なかでも区東部は、大規模で良好な自然が残り、横浜市の緑の7大拠点*のひとつに数えられています。都市公園*の面積は、区の面積の2.86%（平成16年3月31日現在）です。緑地の大部分は民有地ですが、一部は、市民の森*や緑地保全地区*に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

緑地

栄区の面積 に対する比率

市有緑地である都市緑地 2.86%

市民の森 3.43%

緑地保全地区 0.64%

民有地 34.77%

栄区の緑被率 41.7%

法・条例等で
指定されている緑地
約7%

法・条例等で
指定されていない民有地の緑地
約35%

③緑と水

栄区の緑被率は41.7%（全市31.2%・平成13年9月現在）と高く、全体的に緑豊かな環境となっています。なかでも区東部は、大規模で良好な自然が残り、横浜市の緑の7大拠点*のひとつに数えられています。都市公園*の面積は、区の面積の2.86%（平成16年3月31日現在）です。緑地の大部分は民有地ですが、一部は、市民の森*や緑地保全地区*に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

区内の緑地は昭和30年代後半から50年代前半にかけての大規模開発により急減し、その後は微減となっていました。近年、斜面地でのマンション建設や市街化調整区域における墓地造成等が進み、残されていた緑の減少が加速しています。豊かな自然を将来にわたって保全していくためには、既存の保全施策の活用を進めるとともに、新たな緑の保全の枠組みを検討する必要があります。

区の中央を東西に流れる独川は、ふるさとの川整備事業*の対象に指定され、自然環境に配慮した河川改修が行われるとともに、プロムナードが整備されて、栄区のシンボルリバーとして区民の憩いの場となっています。下流域についてはぼぼ改修が完了しており、現在、区東部にかけて事業が進められています。

図1-8 緑と水の現状



図1-9 幹線道路・地区幹線道路の整備状況



区内の緑地は昭和30年代後半から50年代前半にかけての大規模開発により急減し、その後は微減となっていました。近年、斜面地でのマンション建設や市街化調整区域における墓地造成等が進み、残されていた緑の減少が加速しています。豊かな自然を将来にわたって保全していくためには、既存の保全施策の活用を進めるとともに、新たな緑の保全の枠組みを検討する必要があります。

保全地区*に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

緑地

栄区の面積 に対する比率

市有緑地である都市緑地 2.86%

市民の森 3.43%

緑地保全地区 0.64%

民有地 34.77%

栄区の緑被率 41.7%

法・条例等で
指定されている緑地
約7%

法・条例等で
指定されていない民有地の緑地
約35%

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

住者が多く、地区全体で少子高齢化が進み、人口減少の傾向にあります。
 * 環状4号線が慢性的に渋滞し、通行に支障をきたしていることから、環状4号線の早期整備について要望が多く寄せられています。

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

* 環境事業跡跡地がりますが、平成13年2月から採掘を中止して、現在は休耕地として利用されています。
 * 栄プール、郡風荘、上郷・森の家、庄戸中コミュニティハウス、中郷地区センター（仮称）の建設が予定されるなど、比較的公共施設が充実しています。
 * 細川や瀬上沢（細川石支川）、瀬上市民の森、上郷市民の森、横浜自然観察の森といった、自然資源にも恵まれています。

◆上郷B地区のまちづくりの目標

緑と水の豊かな自然環境と住宅地が調和したまち

図冊-2-7. 上郷B地区方針図



区の現状と課題（緑と水）・・・P12

テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22

区の現状と課題（人口）・・・P10

区の現状と課題（土地利用）・・・P11

平成17年度栄区民意識調査・・・P2

区の現状と課題（道路・交通）・・・P12

テーマ別まちづくり方針「道路・交通」・・・P26

テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22

上郷B地区：上郷町、庄戸一丁目～庄戸五丁目、長倉長、東上郷町、野七里一丁目～二丁目

〔2〕 区の現状と課題

①人口

栄区の人口は、123,429人で、18区中では西区に次いで2番目に少ない数値です（全市人口3,561,897人）。平成5年をピークに減少が続いていましたが、マンション開発に伴い、平成14年から緩やかな増加に転じています。

区内の人口分布を見ると、丘陵部の開発住宅地に一定の人口がまとまっているとともに、本郷台駅周辺等の大規模な集合住宅が立地しているところには人口が集中しています。また、柏尾川西側は大規模工場及び農業地域となっていることから、人口密度が低く、区の南東部は緑地やゴルフ場等になっているため、人口は非常に少ない状況です。

町別に平成13年～15年を比較すると、開発住宅地の人口が軒並み減少しているなかで、マンション開発が進んだ飯島町、鍛冶ヶ谷二丁目では1,000人以上の増加が見られました。

区民の平均年齢は42.5歳であり、18区中5番目に高くなっています（全市41.1歳）。65歳以上の老年人口割合は16.9%で、ここ数年、急激に増加し、全市平均を上回りました（全市15.8%）。

一方、15歳未満の年少人口の割合は平成2年から平成15年の14年間で5.6ポイント減少しています（栄区18.2%→12.6%、全市17.1%→13.7%）。

また、高齢者の単身世帯及び夫婦世帯数は、5,791世帯（栄区計43,331世帯：平成12年10月1日国勢調査による）と、区全体に占める割合は13.4%であり、10年前の平成2年調査（2,431世帯・6.0%）に比べ2倍以上の数値を示しています。

これらは、昭和40～50年代に移り住んできた定住層が高齢化するとともに、その子どもたちは他区や他都市へ流出し、出生数の低下等がおこったためと考えられます。

町別に見ると、本郷台、庄戸、桂台周辺では高齢化率が区の平均以上であるとともに、年少人口割合が10%以下であり、他地区に比べ年少高齢化の傾向が顕著に表れています。

図1-4 町別人口分布



図1-5 町別人口増減

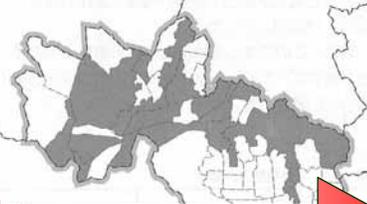
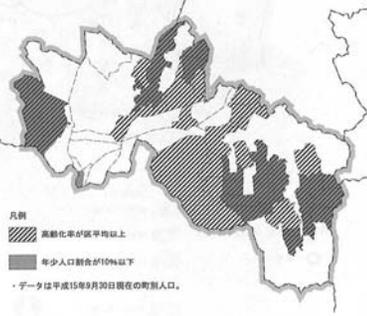


図1-6 町別老年人口・年少人口割合



65歳以上の人口割合：16.9%

横浜市平均（15.8%）を上回り、ここ数年で急激に増加

区民の平均年齢は42.5歳であり、18区中5番目に高くなっています（全市41.1歳）。65歳以上の老年人口割合は16.9%で、ここ数年、急激に増加し、全市平均を上回りました（全市15.8%）。

〔2〕 区の現状と課題

①人口

栄区の人口は、123,429人で、18区中では西区に次いで2番目に少ない数値です（全市人口3,561,897人）。平成5年をピークに減少が続いていましたが、マンション開発に伴い、平成14年から緩やかな増加に転じています。

区内の人口分布を見ると、丘陵部の開発住宅地に一定の人口がまとまるとともに、本郷台駅周辺等の大規模な集合住宅が立地しているところには人口が集中しています。また、柏尾川西側は大規模工場及び農業地域となっていることから、人口密度が低く、区の南東部は緑地やゴルフ場等になっているため、人口は非常に少ない状況です。

町別に平成13年～15年を比較すると、開発住宅地の人口が軒並み減少しているなかで、マンション開発が進んだ飯島町、鍛冶ヶ谷二丁目目で1,000人以上の増加が見られました。

区民の平均年齢は42.5歳であり、18区中5番目に高くなっています（全市41.1歳）。65歳以上の老年人口割合は16.9%で、ここ数年、急激に増加し、全市平均を上回りました（全市15.8%）。

一方、15歳未満の年少人口の割合は平成2年から平成15年の14年間で5.6ポイント減少しています（栄区18.2%→12.6%、全市17.1%→13.7%）。

また、高齢者の単身世帯及び夫婦世帯数は、5,791世帯（栄区計43,331世帯：平成12年10月1日国勢調査による）と、区全体に占める割合は13.4%であり、10年前の平成2年調査（2,431世帯・6.0%）に比べ2倍以上の数値を示しています。

これらは、昭和40～50年代に移り住んできた定住層が高齢化するとともに、その子どもたちは他区や他都市へ流出し、出生数の低下等がおこったためと考えられます。

町別に見ると、本郷台、庄戸、桂台周辺では高齢化率が区の平均以上であるとともに、年少人口割合が10%以下であり、他地区に比べ年少高齢化の傾向が顕著に表れています。

図1-4 町別人口分布

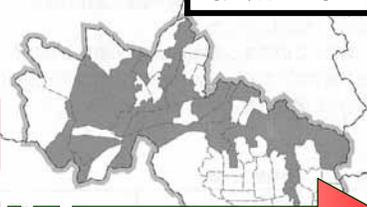


凡例

○人口100人

・データは平成15年9月30日現在の町別人口。
・丸の大きさは人口密度を表し、丸が小さい人口密度が高いことを示す。

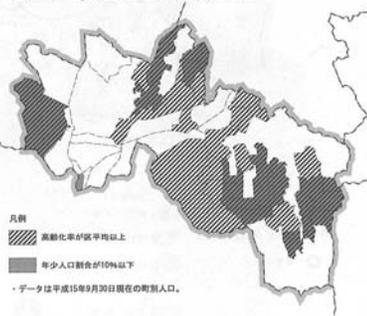
図1-5 町別人口増減



凡例

■人口増加
□人口減少
・データは平成13年、平成15年の9月30日現在の町別人口の比較による。

図1-6 町別老年人口・年少人口割合



凡例

■高齢化率が区平均以上

■年少人口割合が10%以下

・データは平成15年9月30日現在の町別人口。

65歳以上の人口割合：16.9%

横浜市平均（15.8%）を上回り、ここ数年で急激に増加

15歳以下の人口割合：5.6ポイント減少

	平成12年	平成15年	増 減
栄 区	18.2%	12.6%	5.6ポイント減少
横浜市	17.1%	13.7%	3.4ポイント減少

一方、15歳未満の年少人口の割合は平成2年から平成15年の14年間で5.6ポイント減少しています（栄区18.2%→12.6%、全市17.1%→13.7%）。

〔2〕 区の現状と課題

①人口

栄区の人口は、123,429人で、18区中では西区に次いで2番目に少ない数値です(全市人口3,561,897人)。平成5年をピークに減少が続いていましたが、マンション開発に伴い、平成14年から緩やかな増加に転じています。

区内の人口分布を見ると、丘陵部の開発住宅地に一定の人口がまとまっているとともに、本郷台駅周辺等の大規模な集合住宅が立地しているところには人口が集中しています。また、柏尾川西側は大規模工場及び農業地域となっていることから、人口密度が低く、区の南東部は緑地やゴルフ場等になっているため、人口は非常に少ない状況です。

町別に平成13年～15年を比較すると、開発住宅地の人口が軒並み減少しているなかで、マンション開発が進んだ飯島町、鍛冶ヶ谷二丁目では1,000人以上の増加が見られました。

区民の平均年齢は42.5歳であり、18区中5番目に高くなっています(全市41.1歳)。65歳以上の老年人口割合は16.9%で、ここ数年、急激に増加し、全市平均を上回りました(全市15.8%)。

一方、15歳未満の年少人口の割合は平成2年から平成15年の14年間で5.6ポイント減少しています(栄区18.2%→12.6%、全市17.1%→13.7%)。

また、高齢者の単身世帯及び夫婦世帯数は、5,791世帯(栄区計43,331世帯：平成12年10月1日国勢調査による)と、区全体に占める割合は13.4%であり、10年前の平成2年調査(2,431世帯・6.0%)に比べ2倍以上の数値を示しています。

これらは、昭和40～50年代に移り住んできた定住層が高齢化するとともに、その子どもたちは他区や他都市へ流出し、出生数の低下等がおこったためと考えられます。

町別に見ると、本郷台、庄戸、桂台周辺では高齢化率が区の平均以上であるとともに、年少人口割合が10%以下であり、他地区に比べ年少高齢化の傾向が顕著に表れています。

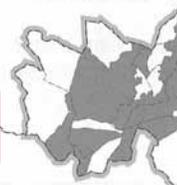
図1-4 町別人口分布



凡例

○人口100人
・データは平成15年9月30日現在の町別人口。
・丸の大きさは人口密度を表し、丸が小さい人口密度が高いことを示す。

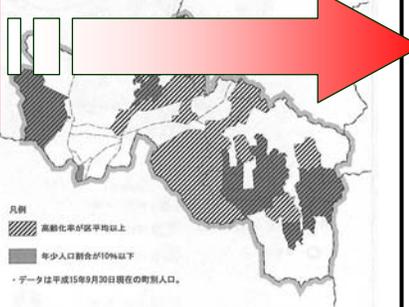
図1-5 町別人口増減



凡例

■人口が増加している町
□人口が減少している町
・データは平成13年、平成15年の9月30日現在の町別人口の比較による。

図1-6 町別老年人口・年少人口割合



凡例

■高齢化率が区平均以上
■年少人口割合が10%以下
・データは平成15年9月30日現在の町別人口。

65歳以上の人口割合：16.9%

横浜市平均(15.8%)を上回り、ここ数年で急激に増加

15歳以下の人口割合：5.6ポイント減少

	平成12年	平成15年	増減
栄区	18.2%	12.6%	5.6ポイント減少
横浜市	17.1%	13.7%	3.4ポイント減少

高齢者の単身および夫婦世帯数：2倍

6% (平成2年) 13.4% (平成12年)

また、高齢者の単身世帯及び夫婦世帯数は、5,791世帯(栄区計43,331世帯：平成12年10月1日国勢調査による)と、区全体に占める割合は13.4%であり、10年前の平成2年調査(2,431世帯・6.0%)に比べ2倍以上の数値を示しています。

これらは、昭和40～50年代に移り住んできた定住層が高齢化するとともに、その子どもたちは他区や他都市へ流出し、出生数の低下等がおこったためと考えられます。

〔2〕 区の現状と課題

①人口

栄区の人口は、123,429人で、18区中では西区に次いで2番目に少ない数値です(全市人口3,561,897人)。平成5年をピークに減少が続いていましたが、マンション開発に伴い、平成14年から緩やかな増加に転じています。

区内の人口分布を見ると、丘陵部の開発住宅地に一定の人口がまとまっているとともに、本郷台駅周辺等の大規模な集合住宅が立地しているところには人口が集中しています。また、柏尾川西側は大規模工場及び農業地域となっていることから、人口密度が低く、区の南東部は緑地やゴルフ場等になっているため、人口は非常に少ない状況です。

町別に平成13年～15年を比較すると、開発住宅地の人口が軒並み減少しているなかで、マンション開発が進んだ飯島町、鍛冶ヶ谷二丁目では1,000人以上の増加が見られました。

区民の平均年齢は42.5歳であり、18区中5番目に高くなっています(全市41.1歳)。65歳以上の老年人口割合は16.9%で、ここ数年、急激に増加し、全市平均を上回りました(全市15.8%)。

一方、15歳未満の年少人口の割合は平成2年から平成15年の14年間で5.6ポイント減少しています(栄区18.2%→12.6%、全市17.1%→13.7%)。

また、高齢者の単身世帯及び夫婦世帯数は、5,791世帯(栄区計43,331世帯：平成12年10月1日国勢調査による)と、区全体に占める割合は13.4%であり、10年前の平成2年調査(2,431世帯・6.0%)に比べ2倍以上の数値を示しています。

これらは、昭和40～50年代に移り住んできた定住層が高齢化するとともに、その子どもたちは他区や他都市へ流出し、出生数の低下等がおこったためと考えられます。

町別に見ると、本郷台、庄戸、桂台周辺では高齢化率が区の平均以上であるとともに、年少人口割合が10%以下であり、他地区に比べ少子高齢化の傾向が顕著に表れています。

図1-4 町別人口分布



凡例

○人口100人
・データは平成15年9月30日現在の町別人口。
・丸の大きさは人口密度を表し、丸が小さい人口密度が高いことを示す。

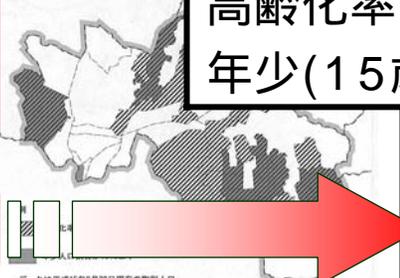
図1-5 町別人口増減



凡例

■人口が増加している町
□人口が減少している町
・データは平成13年、平成15年の9月30日現在の町別人口比較による。

図1-6 町別老年人口・年少人口割合



・データは平成15年9月30日現在の町別人口。

65歳以上の人口割合：16.9%

横浜市平均(15.8%)を上回り、ここ数年で急激に増加

15歳以下の人口割合：5.6ポイント減少

	平成12年	平成15年	増減
栄区	18.2%	12.6%	5.6ポイント減少
横浜市	17.1%	13.7%	3.4ポイント減少

高齢者の単身および夫婦世帯数：2倍

6% (平成2年) 13.4% (平成12年)

提案区域周辺において、少子高齢化の傾向が顕著

庄戸、桂台周辺(提案区域周辺)において、
高齢化率(65歳以上の人口割合)が区の平均以上
年少(15歳以下)人口割合が10%以下

町別に見ると、本郷台、庄戸、桂台周辺では高齢化率*が区の平均以上であるとともに、年少人口割合が10%以下であり、他地区に比べ少子高齢化の傾向が顕著に表れています。

②土地利用

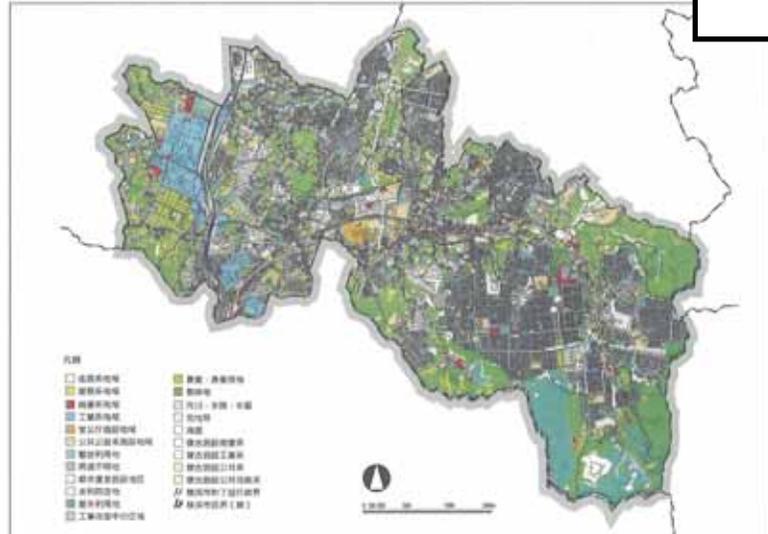
栄区では、平成16年4月1日現在、総面積約1,854haのうち市街化区域*が1,301ha、市街化調整区域*が553haとなっており、市街化区域のうち88.9%を住居系用途地域*が占め、大半は戸建て住宅地となっています。

丘陵部の開発住宅地においては、建築協定*や地区計画*等により、住環境の保全策が講じられている地区も多くありますが、少子高齢化が進んでいることから、2世帯住宅への変更や、商店などの生活利便施設の立地を容認するなど、住み続けられるまちを目指した柔軟な運用が求められています。

低地部は、狭い区画と細い街路の入り組んだ木造住宅密集地や、幹線道路*沿いに商住が混在した市街地となっており、住宅地内道路の整備やオープンスペースの確保など、住環境及び防災性の向上が課題となっています。

区西部の田谷町・金井町周辺、区南部の公田町周辺にはまとまった農地があり、農業を取り巻く状況の変化にあわせた都市農業の振興や区民との連携が課題となっています。

図1-1 土地利用状況/出典：平成9年度 横浜市都市計画基礎調査（横浜市都市計画局都市計画課）



都市計画道路*桂町戸塚通線、横浜倉庫街*、環状4号線（原宿六浦線）では、道路整備の進捗に伴い、商業集合住宅が増加しています。また、横浜横浜湘南道路沿道のまちづくりについては、事業進捗と併せて進める必要用地、緑地、農地など、それぞれの...

注1 横浜鎌倉線（鎌倉街道）
鎌倉街道という名称が一般的ですが、以前都市計画道路名称である「横浜鎌倉線」で統一
注2 環状4号線（原宿六浦線）
原宿六浦線とも呼ばれていますが、以前都市計画道路名称である「環状4号線」で統一

丘陵部の開発住宅地においては、建築協定*や地区計画*等により、住環境の保全策が講じられている地区も多くありますが、少子高齢化が進んでいることから、2世帯住宅への変更や、商店などの生活利便施設の立地を容認するなど、住み続けられるまちを目指した柔軟な運用が求められています。

平成17年度

栄区民意識調査 (概要版)

目次

- 調査概要.....1
- 回答者の属性にみる特徴.....1
- 集計分析結果.....2
- 1. 栄区への定住意向.....2
- 2. 地域の生活環境.....3
- 3. 道路・交通の利便性.....5
- 4. 緑・水辺などの自然環境.....6
- 5. 福祉・保健.....7
- 6. 子育て環境.....9
- 7. 防犯対策.....10
- 8. 防災対策.....12
- 9. ボランティア活動.....14
- 10. 区役所の窓口サービス.....16
- 11. 区の広報・広聴.....18



栄区 いたち川マスコット
タッチーくん

注)表、グラフ等の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。
グラフ中のnは総数、MAは複数回答(マルチアンサー)であることを示します。

集計分析結果

1. 栄区への定住意向

定住意向が高く、地域への愛着も強い

栄区に「住み続けたい」と思っている人が76.7%と、全体の4分の3以上を占め、定住意向が高い。
現在住んでいる地域に「愛着がある」とする人は、「最近愛着がわいてきた」とする人を含めて、78.5%と8割弱を占め、愛着も強い。

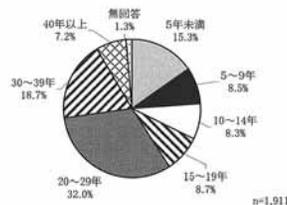
居住年数

全体の8割近くが10年以上居住しており、20年以上居住しているという人も全体の6割弱を占めている。

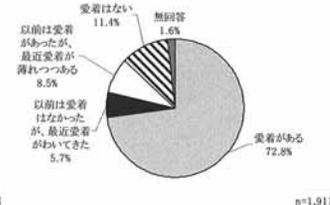
地域への愛着度

「愛着がある」が全体の7割を超えている。
「以前は愛着があったが、最近愛着が薄れつつある」という回答も8.5%あり、その理由として「利便性が悪い」、「自然環境の破壊」、「住環境の悪化」、「活力の低下」、「高速道路の計画」などがあげられている。

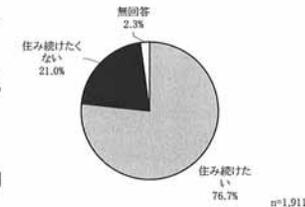
居住年数図



現在の住まいへの愛着度



現在の住まいへの居住意向



地域への定住意向

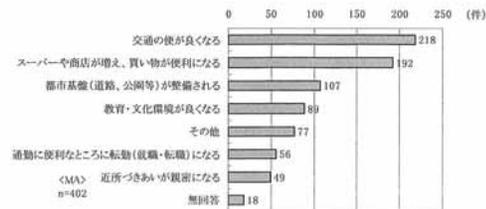
「住み続けたい」が全体の概ね8割、「住み続けたくない」が2割。
年齢が高くなるほど定住意向は強い。

地区別にみると「小菅ヶ谷地区」で「住み続けたい」が多く(84.3%、全区76.7%)、「上郷B地区」では「住み続けたくない」がやや多くなっている(26.9%、全区21.0%)。

今後も住み続けるための条件

「交通の便が良くなる」、「スーパーや商店が増え、買い物便利になる」が特に多い。

今後も住み続けるための条件 (3つまで回答)

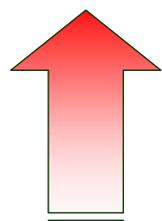


地域への定住意向

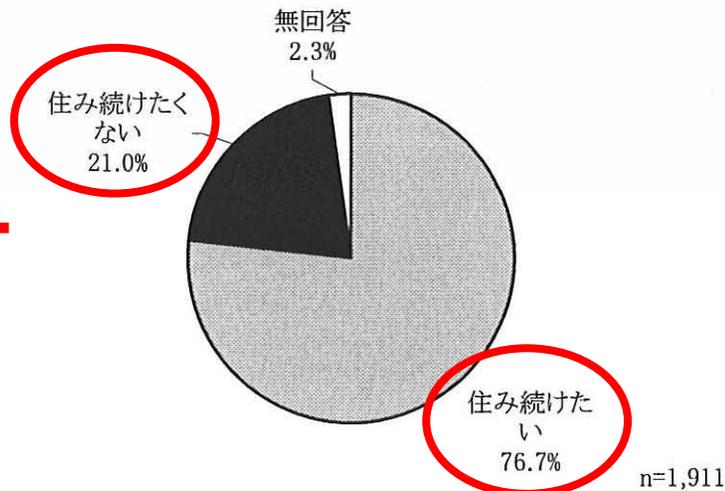
「住み続けたい」が全体の概ね8割、「住み続けたくない」が2割。年齢が高くなるほど定住意向は強い。

地区別にみると「小菅ヶ谷地区」で「住み続けたい」が多く(84.3%、全区76.7%)、「上郷B地区」では「住み続けたくない」がやや多くなっている(26.9%、全区21.0%)。

上郷B地区「住み続けたくない」が26.9%とやや多い傾向である。



現在の住まいへの居住意向



7. 防犯対策	10
8. 防災対策	12
9. ボランティア活動	14
10. 区役所の窓口サービス	16
11. 区の広報・広聴	18



注)表、グラフ等の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。
グラフ中のnは総数、MAは複数回答(マルチアンサー)であることを示します。

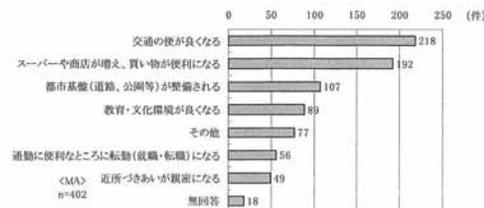
地域への定住意向

「住み続けたい」が全体の概ね8割、「住み続けたくない」が2割。年齢が高くなるほど定住意向は強い。
地区別にみると「小菅ヶ谷地区」で「住み続けたい」が多く(84.3%、全区76.7%)、「上郷B地区」では「住み続けたくない」がやや多くなっている(26.9%、全区21.0%)。

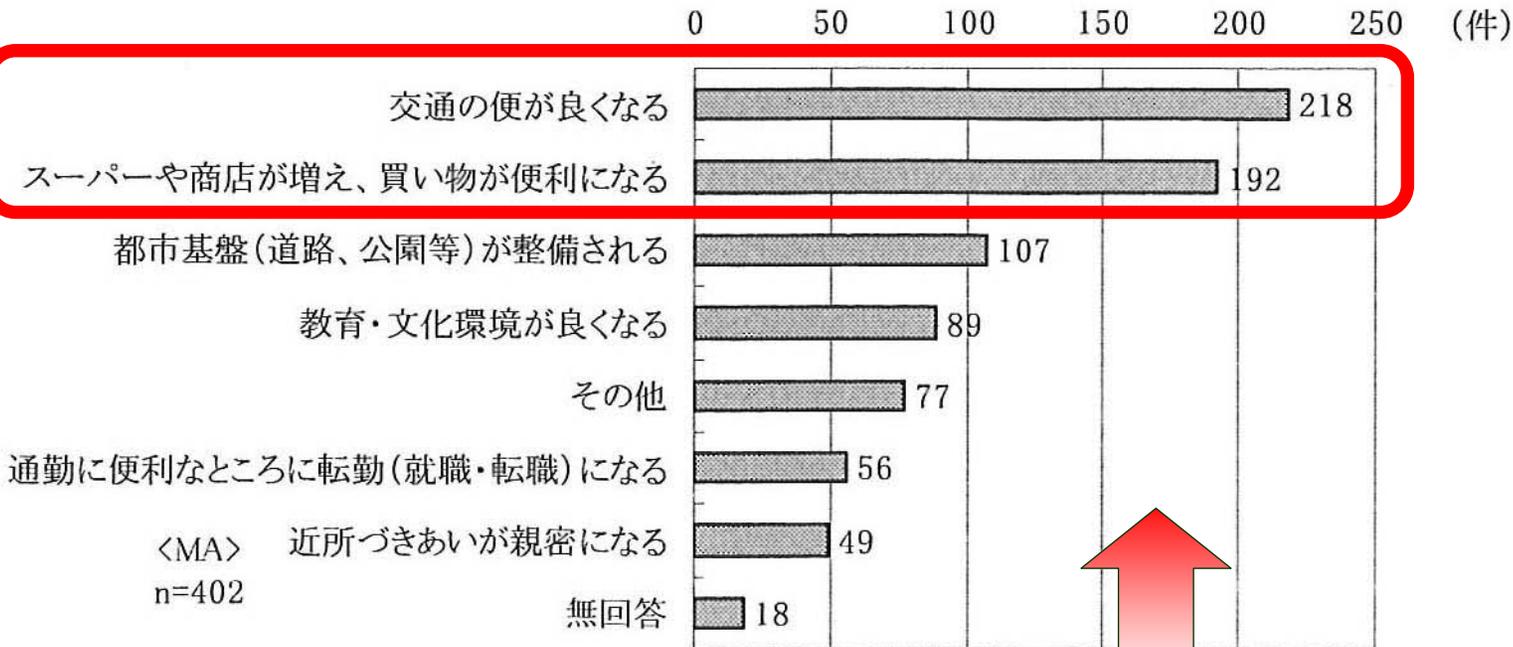
今後も住み続けるための条件

「交通の便が良くなる」、「スーパーや商店が増え、買い物が便利になる」が特によく。

今後も住み続けるための条件 (3つまで回答)



今後も住み続けるための条件（3つまで回答）



- 調査概要………
- 回答者の属性に
集計分析結果………
1. 栄区への定住意向
 2. 地域の生活環境
 3. 道路・交通の便
 4. 緑・水辺な環境
 5. 福祉・保健・医療
 6. 子育て環境
 7. 防犯対策
 8. 防災対策
 9. ボランティア活動
 10. 区役所の窓口
 11. 区の広報・広聴

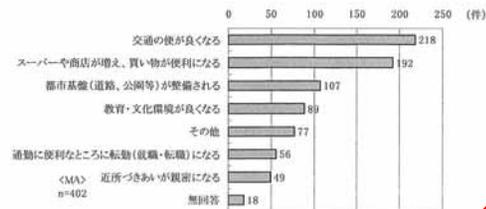


注）表、グラフ等の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。
グラフ中のnは総数、MAは複数回答（マルチアンサー）であることを示します。

今後も住み続けるための条件

「交通の便が良くなる」、「スーパーや商店が増え、買い物が便利になる」が特に多い。

今後も住み続けるための条件（3つまで回答）



③緑と水

栄区の緑被率は41.7%（全市31.2%・平成13年9月現在）と高く、全体的に緑豊かな環境となっています。なかでも区東部は、大規模で良好な自然が残り、横浜市の緑の7大拠点*のひとつに数えられています。都市公園*の面積は、区の面積の2.86%（平成16年3月31日現在）です。緑地の大部分は民有地ですが、一部は、市民の森*や緑地保全地区*に指定されるなど、緑地保全施策がとられています。

区内の緑地は昭和30年代後半から50年代前半にかけての大規模開発により急減し、その後は微減となっていました。近年、斜面地でのマンション建設や市街化調整区域における墓地造成等が進み、残されていた緑の減少が加速しています。豊かな自然を将来にわたって保全していくためには、既存の保全施策の活用を進めるとともに、新たな緑の保全の枠組みを検討する必要があります。

区の中央を東西に流れる廻川は、ふるさとの川整備事業*の対象に指定され、自然環境に配慮した河川改修が行われるとともに、プロムナードが整備されて、栄区のシンボルリバーとして区民の憩いの場となっています。下流域については改修が完了しており、現在、区東部にかけて事業が進められています。

④道路・交通

栄区の都市計画道路*の整備率は31.2%（自動車専用道路を除く・全市59.8%・平成15年4月1日現在）と18区中最低となっており、骨格的な道路網の整備が急務となっています。

特に環状4号線については、幹線道路であるとともに、丘陵部の住宅地から鉄道駅を結ぶ主要ルートとなっており、さらに横浜鎌倉線と一部区間で重複することから、慢性的に交通渋滞が発生し、早期の拡幅整備が必要となっています。

また、自動車専用道路である横浜環状南線や横浜南道路は、栄区をはじめ横浜市南部地域における骨格的な道路として、また、首都圏の広域的なネットワークを形成する道路として、整備を進めていく必要があります。

区民の最も身近な移動手段であるバス交通については、鉄道駅やバス停から離れた地域の交通利便性の改善とともに、高齢化社会に対応するため、小型バス等による住宅地域への新路線導入や、バス路線全体の再編が検討課題となっています。

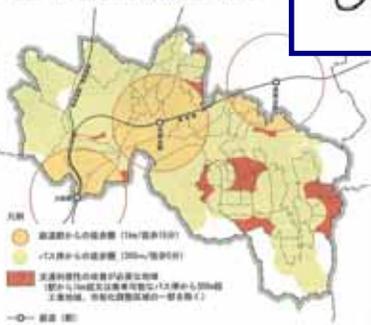
図1-8 緑と水の現状



図1-9 幹線道路・地区幹線道路の整備状況



図1-10 鉄道駅とバス停からの徒歩圏



区の現状と課題（道路・交通）

④道路・交通

栄区の都市計画道路*の整備率は31.2%（自動車専用道路を除く・全市59.8%・平成15年4月1日現在）と18区中最低となっており、骨格的な道路網の整備が急務となっています。

特に環状4号線については、幹線道路であるとともに、丘陵部の住宅地から鉄道駅を結ぶ主要ルートとなっており、さらに横浜鎌倉線と一部区間で重複することから、慢性的に交通渋滞が発生し、早期の拡幅整備が必要となっています。

区の現状と課題（道路・交通）

④道路・交通

栄区の都市計画道路※の整備率は31.2%（自動車専用道路を除く・全市59.8%・平成15年4月1日現在）と18区中最低となっており、骨格的な道路網の整備が急務となっています。

特に環状4号線については、幹線道路であるとともに、丘陵部の住宅地から鉄道駅を結ぶ主要ルートとなっており、さらに横浜鎌倉線と一部区間で重複することから、慢性的に交通渋滞が発生し、早期の拡幅整備が必要となっています。

—具体的な取り組み一覧—

2-1-1 幹線道路※・地区幹線道路※の整備

横浜市の道路計画「3環状10放射道路※」を主とした幹線道路や地区幹線道路の整備を促進し、円滑な道路交通ネットワークを実現することにより、交通渋滞の解消及び利便性の向上を目指します。

□環状4号線（全線：36,550m 栄区：8,500m）

事業中の鎌倉市場から本郷小前交差点までの4車線化について、早期完成に向けて整備を進めます。引き続き、本郷小前から神奈中車庫前交差点までの区間の4車線化について、拡幅の具体化に向けて調整するとともに、神奈中車庫前から上郷交差点までの道路改良を検討します。

□環状3号線（全線：28,170m 栄区：1,740m）

現在、磯子区の国道16号から長沼町の大船停車場矢部線までの約8.7kmが開通しています。栄区内の区間はほぼ完成し、今後は区境の相模川から戸塚区の国道1号までの区間について、早期完成に向けて整備を進めます。

□横浜鎌倉線（全線：12,640m 栄区：1,250m）

事業中の殿治ヶ谷地区の4車線化について、平成16年度完成を目指し整備を進めます。また、桂町地区（新設部）についても環状4号線への早期接続を目指して進めます。

□上郷公田線（全線：3,170m 栄区：3,170m）

環状4号線神戸橋交差点と桂町交差点をむすび、環状4号線の渋滞緩和や区南部から本郷台駅方面への交通利便性を向上するとともに、横浜環状南線（仮称）公田インターチェンジへの連絡機能を持つ路線です。大部分が横浜環状南線の一部を利用することから、横浜環状南線と一体的な整備を進めますが、西ヶ谷御地入口交差点から桂台第四公園付近までの約1.2kmについては、本市初の試みとして、住民参加により基本計画案を検討します。

□横浜藤沢線（全線：7,330m 栄区：3,150m）

横浜環状南線と横浜湘南道路に連絡する幹線道路として、現在、上永谷地区、上永谷舞岡地区、田谷小雀地区で事業中です。事業中の地区のまちづくり状況や自動車専用道路の整備状況を踏まえ、地区内の強弱の区間について事業化に向けて調整します。

□**舞岡上郷線**（全線：5,970m 栄区：720m）

港南区境の環状3号線から環状4号線神奈中車庫前交差点まで、2車線の暫定供用となっていますが、区南東部から港南台駅に向かう主要ルートとなっているため、4車線化に向けて調整します。

□桂町戸塚連絡線（全線：10,240m 栄区：1,240m）

環状3号線小菅ヶ谷の交差点から横浜台交差点までの区間について、平成17年度の完成を目指して整備を進めます。

□下永谷大船線（全線：7,470m 栄区：1,470m）

港南区下永谷と大船を連絡する道路の整備にあわせて、一部事業化を進めます。

□地区幹線道路

田谷線（戸塚大船線の一部を含む）（全線870m、栄区670m）については、平成16年度より事業化を進めます。

具体的な取り組み（舞岡上郷線）

□舞岡上郷線（全線：5,970m 栄区：720m）

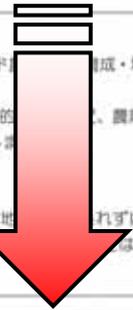
港南区境の環状3号線から環状4号線神奈中車庫前交差点まで、2車線の暫定供用となっていますが、区南東部から港南台駅に向かう主要ルートとなっているため、4車線化に向けて調整します。

ネットワークの一部となる市街地における緑と水辺の創出をはかります。

1-2-3 自然に親しめるプロムナード、ハイキングコースの整備
 区民の散策やレクリエーションのために、水辺のプロムナードの延伸、既存のプロムナードをつなぐ新しいルートやハイキングコースの整備により、散策路についてもネットワーク化をはかり、区内全域に広がる利用しやすい散策路網の創出を検討します。

1-3-1 各種制度による良好な農業地域の振興
 農業振興地域*指定地においては、横浜ブランド*形成・増産など、各種農業振興施策により都市型農業の振興をはかります。
 また、道路事業にかかる農地については、計画的な農地転用を抑制し、農業を継続できるような環境づくりや新たな農業展開が可能な方策について検討します。

1-3-2 区民が農作業を体験できる仕組みづくり
 農家と連携をはかりながら、後継者のいない農地や耕作放棄地を積極的に活用し、市民農園や学校農園として区民の憩いと学習の場を創出をはかります。



「緑・水・自然環境」
 のまちづくり方針の目標
 自然に囲まれた生活ができるまちづくり

具体的な取り組み：
 自然に親しめるプロムナード・ハイキングコースの整備

1-2-3 自然に親しめるプロムナード、ハイキングコースの整備

区民の散策やレクリエーションのために、水辺のプロムナードの延伸、既存のプロムナードをつなぐ新しいルートやハイキングコースの整備により、散策路についてもネットワーク化をはかり、区内全域に広がる利用しやすい散策路網の創出を検討します。

の推進によりごみの減量・リサイクルを進め、雨水浸透ます*、雨水利用、ソーラーシステムなど、様々なシステムの情報発信及び導入にあたっての助成を検討し、小負荷型・循環型都市の実現を目指します。
 また、地球温暖化防止等への区民意識の向上を図るため、地域における環境教育・学習を実施します。

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

住者が多く、地区全体で少子高齢化が進み、人口減少の傾向にあります。
 * 環状4号線が慢性的に渋滞し、通行に支障をきたしていることから、環状4号線の早期整備について要望が多く寄せられています。

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

* 環境事業跡跡地が残り、平成13年2月から採掘を休止して休耕地となっており、環境改善の取り組みが求められています。
 * 栄プール、郡風荘、上郷・森の家、庄戸中コミュニティハウス、中野郷地区センター（仮称）の建設が予定されるなど、比較的公共施設が充実しています。
 * 独川や瀬上沢（独川右支川）、瀬上市民の森、上郷市民の森、横浜自然観察の森といった、自然資源にも恵まれています。

◆上郷B地区のまちづくりの目標

緑と水の豊かな自然環境と住宅地が調和したまち

図冊-2-7. 上郷B地区方針図



区の現状と課題（緑と水）・・・P12

テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22

区の現状と課題（人口）・・・P10

区の現状と課題（土地利用）・・・P11

平成17年度栄区民意識調査・・・P2

区の現状と課題（道路・交通）・・・P12

テーマ別まちづくり方針「道路・交通」・・・P26

テーマ別まちづくり方針「緑・水・自然環境」・・・P22

上郷B地区：上郷町、庄戸一丁目～庄戸五丁目、長倉長、東上郷町、野七里一丁目～二丁目

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

住者が多く、地区全体で少子高齢化が進み、人口減少の傾向にあります。
 * 環状4号線が慢性的に渋滞し、運行に支障をきたしていることから、環状4号線の早期整備について要望が多く寄せられています。

* 現在、市街化調整区域となっている舞岡上郷線周辺については、港南台駅徒歩圏にあり、利便性が高いことから、土地利用転換の可能性があります。その際には、緑地の保全とともに、地域活性化に貢献するような計画的なまちづくりが求められています。

* 環境事業跡地が残り、平成13年2月から採掘を休止しています。
 * 栄プール、草風荘、上郷・森の家、庄戸コミュニティハウス、中野郷地区センター（仮称）の建設が予定されるなど、比較的公共施設が充実しています。
 * 独川や瀬上沢（独川右支川）、瀬上市民の森、上郷市民の森、横浜自然観察の森といった、自然資源にも恵まれています。

◆上郷B地区のまちづくりの目標

緑と水の豊かな自然環境と住宅地が調和したまち

図冊-2-7. 上郷B地区方針図



- ・ いたち川源流域の自然環境の恒久的な保全
- ・ 区民の環境学習の場としての整備

- ・ 買い物が便利になるなど、生活利便性の向上
- ・ 舞岡上郷線の4車線化
- ・ 水辺プロムナードの整備

上郷B地区：上郷町、庄戸一丁目～庄戸五丁目、長倉長、東上郷町、野七里一丁目～二丁目